

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

山から里の方へ遊びにいった猿が一本の赤い蝋燭を拾いました。赤い蝋燭は沢山あるものではありません。それで猿は赤い蝋燭を花火だと思い込んでしまいました。

猿は拾った赤い蝋燭を大事に山へ持って帰りました。

(略)

いよいよこれから花火を打上げることになりました。しかし困ったことが出来ました。申しますのは、誰も花火に火をつけようとしないからです。みんな花火を見ることは好きでしたが火をつけにくいことは、好きでなかったのであります。

これでは花火はあがりません。そこでくじをひいて、火をつけにくくものを決めることになりました。第一にあたったものは亀でありました。

亀は元気を出して花火の方へやって行きました。だがうまく火をつけることが出来たでしょうか。いえ、いえ。亀は花火のそばまで来ると首が自然に引込んでしまつて出て来なかったのであります。

そこでくじがまたひかれて、こんどは鼬が行くことになりました。鼬は亀よりは幾分ましでした。というの首を引込めてしまわなかったからであります。しかし鼬はひどい近眼でありました。だから蝋燭のまわりをきよろきよろとうろついているばかりでありました。とうとう猪が飛出しました。猪はまったく勇ましい獣でした。猪はほんとうにやっつけて火をつけてしまいました。

①みんなはびつくりして草むらに飛込み耳を固くふさぎました。耳ばかりでなく眼もふさいでしまいました。

しかし蝋燭はほんともいわずに静かに燃えているばかりでした。

【新美 南吉「赤い蝋燭」】

問1 だれも花火に火をつけなかった理由はなぜですか。次の□にあうように文章から書きぬきなさい。

□

ことは好きではなかったから。

問2 —線部①みんなはびつくりして草むらに飛込み耳を固くふさぎました。とありますが、なぜ、みんなはびつくりして草むらに飛び込み耳を固くふさいだのですか。次の□にあうように文章から書きぬきなさい。

□

が拾った赤い

□

を花火だと思っていた

から。